

2021年11月実績概要（メモ）

（2021.12.23）

主要石化製品の生産は、国内需要の持ち直しにそって、過半の製品が前年を上回る。

1. 生産動向

イ) エチレン 545,400トン

前月比 ▲1.7% (▲9,200トン)
 前年同月比 +1.3% (+7,200トン)

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲ 3.3 %	—
定修要因等	—	+ 0.1 %
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 1.6 %	+ 1.2 %
生産増減率	▲ 1.7 %	+ 1.3 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月93.7%* → 当月95.2% ← 前年同月94.1%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

2021年1～11月の累計生産量 5,756.7千トン、前年同期比+6.5%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減があった中、稼働率要因や定修規模差から、HDPE、PS、MMAモノマー、ベンゼン、キシレンなどの9品目がプラス。PP、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、ANなどの8品目はマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差等からLDPE、HDPE、PS、MMAモノマー、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの11品目がプラス。SM、EGなどの6品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数減に対して、定修規模差や稼働率要因からLDPE、HDPE、PSはプラス。PPは稼働率要因からマイナスになった。

前年比では、主に稼働率要因からLDPE、HDPE、PSはプラス。PPのみは微減となった。

ロ) 国内出荷

資源高に伴うコスト上昇局面が続く中、個人消費の持ち直しやサービス産業での回復が見られはじめるも、製造業では輸送機械産業等での部品調達難からの減産の影響が残りつつある。

このような状況下、前月比は、LDPE、HDPEは僅かながらの増加、前月に出荷がやや低下したPP、PSはプラスとなった。

前年比は、前年が、製造分野での回復傾向が秋口から減速したことや、汎用樹脂の出荷もユーザー側の稼働日数減から若干の減少があった。これに対し、当年はLDPE、HDPE、PP、PSでプラスとなった。

出荷分野別では、LDPEはフィルム分野のほか加工紙分野、HDPEはフィルム分野、射出成形分野等での増加があった。PPは射出成形分野のマイナス幅が縮小したほか、フィルム分野の出荷増加が目立った。PSは電機・工業用が減少したが、包装分野、FS分野の出荷は増加した。

ハ) 輸出

前月比は、前月に輸出が減少したHDPE、PP、PSは当月はプラス。LDPEのみはマイナスとなった。

前年比は、コンテナ船不足等の物流ネックや主要輸出先である中国の工業生産の減速もあり、輸出の減少が続いていることにかわりなく、LDPE、HDPE、PSでマイナス、PPのみは前年並みとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PP、PSで増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPE、HDPEは前月並み、PP、PSは低下した。在庫水準としては、LDPE、PP、PSはほぼ適正範囲内、HDPE、はやや高めの水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		10月末	11月末
LDPE	+ 3,100	3.2	3.2
HDPE	+ 9,200	3.3	3.3
P P	+ 10,900	3.5	3.2
P S	+ 4,900	1.7	1.6

以 上

前月からの修正を*で付記